

総合計画策定に係る市民参画について

宇治市

市民参画の機会

	中学生	高校生	大学生	市民等
令和元年度	<p>企画提案 実施済み</p> <p>【内容】 中学校の宇治学の授業でまちのことを学んだ生徒から、宇治市に対して新しい取組の企画提案を頂いた</p> <p>【実施校】 宇治黄檗学園、槇島中学校</p>	<p>企画提案 実施済み</p> <p>【内容】 高校の地域課題発見の授業でまちのことを学んだ生徒から、宇治市に対して新しい取組の企画提案を頂いた</p> <p>【実施校】 立命館宇治高校</p>	<p>アンケート実施 実施済み</p> <p>【内容】 地域に関する授業等でまちのことを学んだ学生を対象にアンケートを実施した</p> <p>【実施大学】 京都文教大学</p>	<p>アンケート実施 実施済み</p> <p>【内容】 市内の公共施設に調査票を設置し実施した（調査期間7～10月、回答数127件（内訳：紙107件、インターネット20件））</p> <p>出前懇談会</p> <p>【内容】 市民と問題意識を共有し、今後のまちづくりの方向性に関して話し合いをした（市民募集5件・40名、活動団体3件・21人、京都文教大学140名）</p>
令和2年度	<p>企画提案 実施済み</p> <p>【内容】 中学校の宇治学の授業でまちのことを学んだ生徒から、宇治市に対して新しい取組の企画提案を頂いた</p> <p>【実施校】 宇治黄檗学園</p>	<p>企画提案 実施済み</p> <p>【内容】 高校の地域課題発見の授業でまちのことを学んだ生徒から、宇治市に対して新しい取組の企画提案を頂いた</p> <p>【実施校】 東宇治高校、立命館宇治高校</p>	<p>アンケート実施 実施済み</p> <p>【内容】 地域に関する授業等でまちのことを学んだ学生を対象にアンケートを実施した</p> <p>【実施大学】 京都文教大学</p>	<p>シンポジウム&ワークショップ 実施済み</p> <p>【内容】 宇治市、京都文教大学、フューチャーデザイン宇治との共同研究により「宇治の今と未来を地域からつくる」をテーマに実施した（シンポジウム約100名参加、ワークショップ（全3回）各回約30名参加）</p>
令和3年度			<p>アンケート実施 実施済み</p> <p>【内容】 地域に関する授業等でまちのことを学んだ学生を対象にアンケートを実施した</p> <p>【実施大学】 京都文教短期大学</p>	<p>市長との意見交換 実施済み</p> <p>【内容】 市長と審議会の市民公募委員とで意見交換を行った（3～4名を1グループとして1回1時間程度、全3回実施）</p> <p>アンケート実施 実施中</p> <p>【内容】 市内在住の18歳以上の方の中から3,000名を無作為抽出し実施中（期日：5/9まで）</p> <p>出前懇談会 企画中</p> <p>【内容】 地域団体や町内会等を対象とした小規模な懇談会を実施予定</p> <p>市民意見募集 企画中</p> <p>【内容】 市内公共施設（体育館、コミセンなど）に投書箱の設置やポスター掲示により、まちづくりのアイデアやまちへの思いなどの意見を募集予定</p>

※これまでに実施済みの取組結果の概要は次頁をご覧ください。
 ※上記の他、基本構想に関するパブリックコメントなどを実施予定です。

これまでの取組結果（主な意見・キーワード）

中学生	高校生	大学生	市民	市民公募委員
誰もが避難しやすいまち	市全体で地球温暖化対策	治安の良い所に住みたい	病院が多い	帰ってきたい場所
防災に対する意識の向上	宇治らしさ	治安の良いまちづくり	程よい田舎	人と人とのつながり
SNSの活用	SNSの活用	就職場所の確保	市民参画・協働ができていない	宇治の伝統
インバウンド対応	限定品やイベント	就職に関する支援	町内会への加入世帯の減少	横のつながり
限定品やスポット	高齢者が活躍する場	買い物などの利便性	市民活動関連部署の設立	人がまちをつくる
宇治ならではのもの	子ども・若者と高齢者との交流	若者が集まる娯楽施設	宇治ブランド	人が集まれる場所
既存のものの良さを更に活かす	若者への就職支援	SNSの活用	中宇治以外の観光	時代に応じた臨機応変さ
子どもと高齢者との交流	若者の興味関心の向上	流行りのものを取り入れる	宿泊施設の誘致	十年後もぶれない軸
流行りのものを取り入れる	子どもの遊び場の確保	若者の交流の場	高齢者の活躍の場	交通事情の改善
若者向けの情報発信	宇治学をより体験型に	子育てしやすい環境	多世代交流	住民同士が関わる仕組み
犯罪の少ないまち	子育て相談支援体制の強化	交通の利便性（市外）が良い	地元での雇用支援	これまでの宇治を理解
子育てしやすいをアピール	市民意見を聞く仕組み	宇治のことを知らない	企業誘致による雇用の場の確保	新しいまちづくり
	看板等の多言語化	宇治ことをもっと知りたい	宇治への愛着醸成	
	学生による通訳	宇治らしさ	子育てしやすい環境	
	外国人労働者への支援	他市との比較	少子化対策	
	ICTを活用し人手不足を解消		市内の交通が不便	
			情報発信が不十分	
			ICTの活用	

世代共通
キーワード

宇治ならではの、宇治らしさ、多世代の交流、子育て環境、高齢者の活躍、働く場の確保、情報発信

中学生からの意見・提案（要約）

No	項目	意見・提案	具体的な内容
1	防災	高齢者をはじめ、誰もが避難しやすい町	<ul style="list-style-type: none"> ● 電柱にスピーカーを取り付ける ● 地域の看板等にハザードマップを設置する ● 避難場所を増やし、高齢者や子ども等が行きやすくする ● 防災アプリやリーフレットを活用し、避難場所等の情報をいつでも見れるようにする
		防災に対する意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ● VR体験や脱出ゲームなど、災害を体感できる設備をつくる ● 学生の時から被災地にボランティアとして参加する ● 避難訓練を積極的に行う ● SNS等を活用し、若者の興味・関心を高める
2	観光	リピーターを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ● インバウンド対応として、看板や案内板等にQRコードを設置し、多言語対応を行う ● スタンプラリーや限定品など、宇治に来なければできないものをつくる ● 観光スポットに抹茶飲み場を設置する
		今あるものの良さを活かす	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリ等を活用し、現地で昔の景色や建物を見れるようにする ● 茶摘み体験を行い、お茶を食だけでなく、体験として位置付ける ● 平等院とコラボしたイベント等（十円玉や鳳凰など）を展開する
3	高齢者	高齢者との交流を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学生と葉書でのやり取りを行い、葉書文化の継承と交流を行う
4	若者	流行りのものを取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ● タピオカと茶団子をコラボさせ、新食感などのワードで興味を引く ● ティックトックなどのSNSを活用し、若者向けの情報発信を行う
5	子ども	子どもや子育て世代が住みやすい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域でのパトロールや街灯の増加などにより、犯罪の少ない町にする ● 児童手当を増額し、子育てしやすいをアピールする

高校生からの意見・提案（要約）

No	項目	意見・提案	具体的な内容
1	環境	市全体で環境問題に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が行っている地球温暖化対策を、市民に十分に周知する ● 地球温暖化等の環境問題について、緊急性や危険性を伝える ● 山間部にソーラーパネルを設置するなど、自然エネルギーを活用する
2	観光	リピーターを増やす	<ul style="list-style-type: none"> ● 茶道体験や宇治限定のスイーツ、イベントなどで宇治らしさを出す ● インスタグラム等のSNSを活用し、現地で使えるクーポン等を発行する
3	高齢者	高齢者が活躍する場をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校で地域の魅力を教えてもらう ● 小中学生と一緒にボランティア活動を行う ● 若者ととともに活動することで、双方の刺激となる
4	若者	若者に関心をもってもらう	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者に企業誘致のアイデア（市有地の貸与）等してもらい、就職につなげる ● 投票率を上げるため、コンビニやスマホで投票可能にする ● 市内で就職する際に補助金等で支援する
5	子ども	子どもや子育て世代が住みやすい	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊び場や自然に触れる機会を増やすため、木製アスレチックを建設 ● 宇治学の体験学習等を増やし、知識詰め込み型の授業から脱却する ● 妊娠や出産など子育てに関する相談支援体制を強化する ● 保育所需要など、子育て世代の意見を聞く仕組みをつくる
6	外国人	外国人に来てもらえるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ● 民泊等により、観光だけではわからない普段の生活を知ってもらう ● 多言語表記により、SNS等で神社や寺院、お茶などの紹介動画を発信する
		外国人が暮らしやすいようにする	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害に関する看板や標識など、文字だけでなく、絵でわかるように工夫する ● 通訳を学生にすることで、学生も外国語を学ぶことができる ● 外国人労働者向けの研修等を支援し、人材不足の職種とつなげる ● 市役所で日本語教室等を行い、市としても、日常の困りごと等を理解する
7	ICT	ICTを活用し、人手不足を解消する	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院等に、医療用・介護用ロボットを導入する ● 企業や農業面で労働生産性を向上させ、地域経済を回復させる

大学生からの意見・提案（要約）

No	項目	主な意見等
1	治安	<ul style="list-style-type: none"> ● 住むところを決めるときは、治安のよいところを選ぶ（※「住むところ」を決めるポイント調査で1位） ● 市としても、治安の良いまちづくりを優先してほしい（※自治体に期待すること調査で1位） ● 治安の良いところに住みたい
2	働く	<ul style="list-style-type: none"> ● 働ける場所の確保や就職支援をしてほしい （※就職の際に「働くところ」か「住むところ」のどちらを優先するかの調査では70%以上が「働くところ」を優先）
3	暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ● 買い物などの利便性が良いところに住みたい（※「住むところ」を決めるポイント調査で3位） ● 近隣に娯楽施設が少ないと残念に思う ● 若者の集まる公共施設にも、カフェや娯楽施設など、日常的に行けるものがあると良い
4	若者	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者に興味をもってもらうため、SNSなどで情報発信をする必要がある ● インスタ映えするスポットなど、流行りを柔軟にとらえる ● 公共施設には、交流できる場所や運動できる場所がほしい
5	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい環境を整備し、子どもを増やす （※大学生の自治体に期待すること調査では2位、短大生の自治体に期待すること調査では3位）
6	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通の利便性が良いところに住みたい （※「住むところ」を決めるポイント調査で2位、自治体に期待すること調査では真ん中より低い）
7	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇治市に住んでいるのに知らないことが多かった ● まちのことをもっと知ってもらう必要がある （※自治体からの情報を得る媒体調査では、ホームページが50%程度、SNSが20%程度、広報誌や公共施設等の掲示がそれぞれ10%程度）
8	宇治らしさ	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶や平等院以外の宇治らしいものが必要 ● 自然豊かなところをアピールする ● 他市と比較した時の強みを知ってもらう （※宇治の魅力とは何かの調査では、世界遺産が1位、自然が2位、お茶が3位、通勤・通学に便利が4位、太陽が丘や植物公園が5位）

市民等からの意見・提案（要約）

No	項目	主な意見等
1	暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院が多いところが良い ● 自然もあり、ほどよい田舎であると感じる ● 空き家や空きスペースが増えている ● 市内が東西で分断されている ● 市民参画・協働ができていない ● 町内会への加入世帯が減っている ● 市民活動の関連部署をつかってほしい
2	観光	<ul style="list-style-type: none"> ● お茶や世界遺産など、宇治ブランドを大切にする ● 中宇治以外の観光戦略も必要 ● 宿泊施設の誘致をする
3	高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が活躍できる場をつくりたい ● 高齢者だけでなく、多世代で交流できる場所が必要
4	若者	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元企業での雇用を支援する ● 企業誘致を行い、雇用の場を創出する ● 宇治への愛着醸成 <p>（※現在出来ていないと思う施策、今後、力を入れるべき施策として、約10%の方が「産業」を選択）</p>
5	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい環境を整備する ● 子育て医療の無償化は良い取組であり、さらに拡充すべき ● 少子化のため、小中学校の統合も進めて行く必要がある ● 少子化対策について、もっと力を入れるべき <p>（※今後、力を入れるべき施策として、10%以上の方が「子育て」を選択）</p>
6	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 市外に行くには便利だが、市内の交通が不便 ● バスの本数が少ない <p>（※現在出来ていないと思う施策、今後、力を入れるべき施策として、約20%の方が「交通」、約10%の方が「道路」を選択）</p>
7	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇治市のしていること、したいことが伝わっていない ● 市民への説明が不十分 ● ICTなどを使った情報発信に力を入れる <p>（宇治市の総合計画の内容を知らない方が約80%、内容は知っているが、分かりにくいと答えた方が約10%）</p>

審議会市民公募委員からの意見・提案（要約）

No	回	テーマ	主な意見等
1	第1回	現役世代が考えるこれからのまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 宇治市を、帰ってきたい、帰ってこれる場所（ほっこりする場所）にする ● 行政、市民を含め、人と人とのつながりを大切にする ● 宇治の伝統を守りながらも、新たなチャレンジ（行動を起こすこと）が必要
2	第2回	女性視点で考えるこれからのまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政も市民も横のつながりが大切 ● まちづくりは人づくり、まちに住んでいる人がまちをつくることになる ● 公園など、人が集まれる場所があると、集まる方も見てる方も憩いの場となる ● 計画は、時代に応じた臨機応変さも必要であるが、十年後もぶれない軸が必要
3	第3回	シニア世代が考えるこれからのまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ● バスのルートや駐車場確保など市内の交通事情を改善する必要がある ● 地域住民同士での挨拶など、住民同士が関わることができる仕組みづくりが必要 ● これまでの宇治を理解した上で新しいまちづくりを行う必要がある